

少人数学級

「少人数学級」とはどのようなものですか？

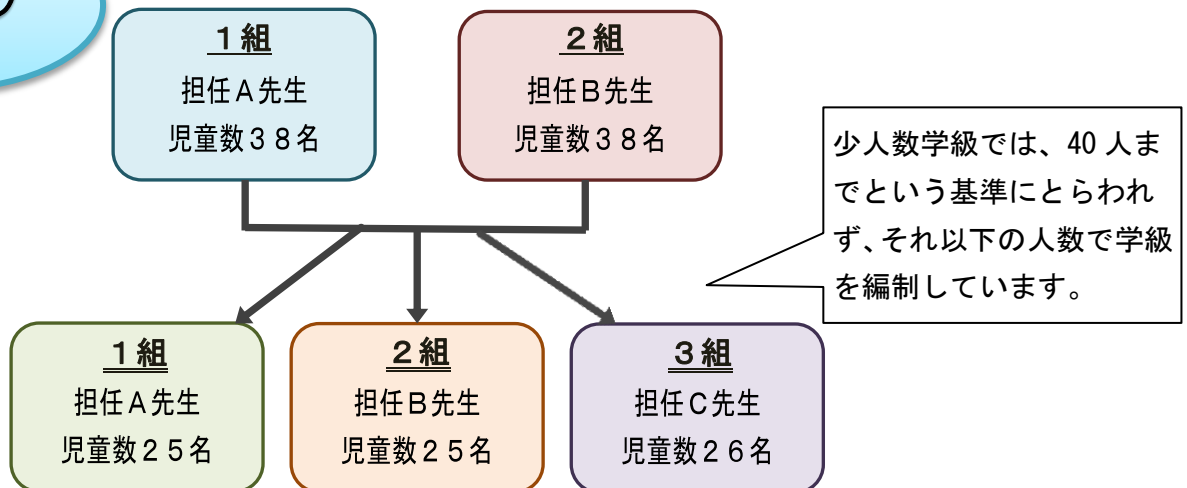
小・中学校では、1学級当たり40人までという基準によって学級を編制しています*。

しかし、児童生徒の状況によっては、それより少ない人数で学級を編制する方が効果的な場合もあり、少人数学級では従来の基準より少ない人数による学級編制を行います。

* 義務標準法の改正により、小学校1年生については、平成23年度から35人以下学級となっています。また、小学校2年生は、制度化には至っていませんが、36人以上学級の解消が図られています。

(義務標準法：公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律)

イメージ



「少人数学級」と「少人数授業」は、違いがあるのですか？

「少人数学級」は常に同じ学級で授業を行うのに対して、「少人数授業」は特定の教科において子どもたちの興味・関心や習熟の程度に応じたグループに分け、少人数で授業を行うという違いがあります。

実施している学校では、全ての学年で行っているのですか？

基本的には、小学校3年生から中学校3年生までを対象に実施しています。

しかし、導入している学校の全ての学年で実施しているというわけではありません。市町村教育委員会や学校が、各学年の児童生徒の状況を見ながら、どの学年で実施するか選択しています。

「少人数学級」の利点はどのようなものですか？

学級の規模を小さくすることによって、子どもたちを掌握しやすく、子どもの実態に即した柔軟な指導が可能になり、先生と子どもたちのふれあいが一層密になるという利点があります。